

北海道編

雪印種苗(株) 道東事業部

松本 啓一

1 はじめに

平成9年北海道乳検の個体乳量の平均は、8,111 kgと増加傾向を示しており、筆者が酪農家を巡回していても、1万 kg以上の牛群を見る機会が多くなりました。

高泌乳牛群が増える一方、乳量は高くないほうが良いという意見を耳にします。人工授精による遺伝改良を進めているので、牛群能力が高まることは必然のような気がしますが、乳量が増えるにつれ、疾病が多発したという苦い経験が主たる理由のようです。

高泌乳化するにつれ飼養技術も進歩しましたが、健康にしておくさんの乳を搾るということに関しては、まだ改善の余地があるように思われます。その一つのポイントとして、分娩後の乾物摂取量を高めることが挙げられます。分娩後の乾物摂取量が高まれば、粗飼料を十分摂取していると無理なく栄養を充足することができ、飛び出し乳量、ピーク乳量がアップし、さらには疾病の減少にもつながります。分娩後の乾物摂取量をアップさせ乳量を高めるには、乾乳牛の飼養管理改善、粗飼料の品質向上、飼養環境の改善等が挙げられます。

今回は「スノードライバランス」を用いて乾乳牛の栄養管理を改善し、分娩後の乳量をアップさせた2戸の酪農家の例をご紹介します。

2 A牧場の例

A牧場は古くから高泌乳牛群で知られていましたが、分娩後の疾病の多発により、牛群乳量も伸び悩んでいました。疾病の症状としては、後産停滞、分娩後の食滞、ケトーシス、第四胃変位等で



写真1 A牧場の2産目の産じょく牛
(分娩後10日目で乳量46.2 kgを記録)

す。疾病の内容、獣医の所見等から低カルシウム血症と判断され、通常、低カルシウム血症の起きにくい初産、2産の牛までにその症状は見られました。いろいろと対策もうってきましたが、どれもはっきりした効果が見られませんでした。そこで今年の5月より「スノードライバランス」を給与し始めました。その特徴を整理しますと、①乾乳期の栄養バランスを考えて設計、②バイパスたんぱく質を強化、③陰イオン剤の添加により、ミネラルバランスを調整、④分娩後の乳量アップ、疾病の減少に効果が期待される等です。陰イオン剤の入った配合飼料は嗜好性があまり良くないため、最初は食べさせるのに苦労したようですが、この牧場では乾乳牛は群飼いし、分娩間近になると繋ぎ飼いにしており、群飼いの時点から徐々に「スノードライバランス」に慣らすようにすると、スムーズに食べるようになったとのこと。筆者も経験がありますが、牛は嗜好性のあまり良くないものでも、群で飼っていると食べるケースがありました。

7月初旬の訪問時には、「スノードライバランス」



写真2 B牧場の乾乳牛施設



写真3 B牧場の産じょく牛

を給与した牛が2頭分娩しておりました。その牛の乳房を写真1に示しましたが、明らかに今まで分娩した牛の乳房の状態とは違いました。また、分娩後の飼料の摂取量も、今までは食い止まる牛が多かったのですが、この2頭に関しては、順調に摂取量が増えてきているとのこと。乳検の乳量については、1頭が分娩後10日目で46.2 kg、もう1頭は分娩後13日目で41.6 kgでした。その月のピーク時の平均乳量が36.8 kgだったので、いかに、この2頭の分娩直後の乳量が高いかがわかります。このことには畜主も驚いていましたが、まだ頭数も少ないので、もっと例数を増やしたいとのことでした。この調子で乳量が上がれば、現在、乳量を高めようと多種の濃厚飼料を給与していますが、それをシンプルにして省力化を図りたいとのことでした。

3 B牧場の例

B牧場は昨年の11月より「スノードライバランス」を給与し始めました。元々、乾乳牛には気を配っており、それは写真2のクローズアップ期専用の施設でもわかります。乾乳後期の牛はフリーストールに隣接しているペンで飼われており、そこで専用の飼料を給与することができます。現在、乾乳後期の牛にはコーンサイレージ、乾草、「スノードライバランス」が給与されています。

「スノードライバランス」を給与し始めて1番大きく変わったことは、TMRの摂取量が増えたということだそうです。その結果は乳量にも反映されており、「スノードライバランス」を給与し始める前(昨年10月)の検定結果を見ますと、ピーク



写真4 B牧場の産じょく牛
(乳量約50 kgを出している)

乳量が31.7 kg(9頭の平均)であったのに対し、給与後(今年6月)では46.7 kg(8頭の平均)と増えています。写真3、4の産じょく期牛の乳房を示しましたが、乳房の張りが良く、色はピンク色をしていました。これらのことをふまえると、いかに乾乳期の栄養管理が分娩後の牛の状態、生産性に与える影響が大きいかがわかります。

4 おわりに

現地を巡回していますと、乾乳牛は非生産牛ということで、粗末な管理をしている酪農家を目にします。人間の産前、産後を考えればよくわかりますが、この時期は非常に大切な時期であり、牛といえども例外ではありません。今回取材した2戸の酪農家は、クローズアップ期の牛は別飼いで大変気を使っています。そこに「スノードライバランス」を給与することにより、ミネラルバランスが改善、バイパスたんぱく質が補給され、今回紹介したような結果が得られたと思われます。